

二瀬窯業株式会社

ブリックモルタル

目地詰め施工要領

一本目地工法(チューブ詰め)

◆材料の混練

表1の調合に基づき、ブリックモルタルを練り混ぜてください。

バケツに練り水を入れ、ブリックモルタル粉体を徐々に加えながら、機械器具(ハンドミキサー等)を用いて練り残しのないよう十分に練り混ぜてください。

練り混ぜた材料は60分以内にご使用ください。

表 1

調合	ブリックモルタル 粉体	水道水
	25kg	約 3.7ℓ

色調に不具合の生じることがありますので、水量は指定量から大幅にはずれないようにしてください。

練り足しや水を加えての練り戻しは行なわないでください。

◆目地詰め

①ドライアウト防止のため必要に応じて目地部に水湿しを行なって下さい。

②目地詰め用のチューブ袋に練り混ぜたブリックモルタルを詰め込んで下さい。

チューブに満量詰めると吐出しにくくなるため、適度な量を入れて下さい。

③目地部に沿って絞り出すように詰め、目地ごて等で空げきができないように充填して下さい。

仕上げ面より若干厚く付けておいてください。

④乾燥具合を見計らい、硬めのホウキやブラシなどで目地の方向に沿って表面を薄く削り取るように掃き均して下さい。削った時にブラシ等にモルタルが粘り付かないタイミングが良い。

⑤タイルに付着したモルタルは、硬化する前に除去して下さい。

⑥施工後は風雨にさらされないようシート掛けなどの養生を施して下さい。

塗り目地工法**◆材料の混練**

表1の調合に基づき、ブリックモルタルを練り混ぜてください。

バケツに練り水を入れ、ブリックモルタルTタイプ粉体を徐々に加えながら、機械器具(ハンドミキサー等)を用いて練り残しのないよう十分に練り混ぜてください。

練り混ぜた材料は60分以内にご使用ください。

表 1

調合	ブリックモルタル Tタイプ粉体	水道水
	25kg	約 3.7ℓ

色調に不具合の生じることがありますので、水量は指定量から大幅にはずれないようにしてください。

練り足しや水を加えての練り戻しは行なわないでください。

◆目地詰め

- ① 硬化不良や目地割れなどを防ぐため、必要に応じて目地材充填部に水湿しを行なって下さい。
- ② 練り混ぜたブリックモルタルTタイプをゴムコテでタイル面から押さえるように目地部に塗り込み、目地内部に空隙が残らないよう繰り返し充填する。
- ③ 目地詰め後、乾燥具合を見計らい、水を固く絞ったスポンジでタイル表面に付着したブリックモルタルを拭き取って下さい。(スポンジに含ませた水が多いと色むらや白華現象の原因になるため注意して下さい。)
- ④ 拭き取り後に目地表面に浮き水が残存していると色ムラの原因になりますので、浮き水が残らないよう注意して下さい。
- ⑤ 目地詰め施工後、強風にさらされたり雨に打たれることがないようにシート掛けなどの方法を講じて下さい。

【注意】

- ・タイル表面が粗面である場合や、吸水の大きなタイルの場合、タイル表面に付着したブリックモルタルが取れにくいことがありますので注意して下さい。
- ・場所によって拭き取るタイミングに差がでると色ムラのでる恐れがありますので注意して下さい。

■白華現象が起こった場合など酸洗いを行なう場合

- ①サッシなどに塩酸がかからないよう要所に養生を施して下さい。
- ②表面を一度水で洗い流して下さい。
- ③表面が乾く前に酸洗いを行行なって下さい。

(工業用塩酸の30倍希釈液を使用し、酸洗いを行なって下さい)

※ 酸の濃度が濃い場合やこすりすぎた場合に、骨材が露出し色調に不具合の生じることがありますのでご注意ください。

- ④もう一度水洗いをし、塩酸をきれいに洗い流してください。

■注意事項

- ①材料の保存は、地面や床へ直置きしないようパレットなど使用して湿気を避け直射日光や雨掛かりのないようにシート掛けなどを施してください。
- ②降雨・降雪時の施工は行わないで下さい。
- ③気温が3℃以下及び3℃以下になると予想される場合は、施工を行わないで下さい。
- ④施工環境などの違いから当社配布の実物サンプルとは色調に差異が生じることがありますことをご了承下さい。
- ⑤ブリックモルタルは白華現象が極力発生しないよう調合を施していますが、条件がそろえばやむなく発生してしまうこともございます。まずは、以下の事項に十分留意して施工を行って下さい。
 - ・ 指定水量より多量の水を混入しないで下さい。
 - ・ 固くなったモルタルへの再加水は行わないで下さい。
 - ・ 仕上げのタイミングに十分注意して下さい。
 - ・ 施工直後に水濡れがないようシートなどで保護して下さい。